セーフコミュニティ年間活動報告書
2025年

コミュニティ名	都留市
認証年月日	2021　年　8月　21日
報告書提出日	2026　年　3月　31日





指標1　分野横断的な協働の仕組み

1-1. 過去1年間に組織の変更があったか

活動開始当初より分野横断的な組織体制が整備されているため変更がないまま現在まで活動を継続している。

1-2. 推進協議会メンバーリスト

別紙名簿のとおり

1-3. 推進協議会の1年間の開催状況

会議名	開催日	主な議題
第13回都留市 セーフコミュニティ 推進協議会	2025. 7. 4	・本年度のスケジュールについて ・事前指導について ・対策委員会2025年度活動計画について
第14回都留市 セーフコミュニティ 推進協議会	2026. 2. 26	・今年度の活動報告について ・外傷サーベイランス委員会における協議結果について ・来年度のスケジュールについて ・対策委員会2025年度年間レポート（活動報告）について

第13回会議の様子



委員会による活動報告（高齢者の安全対策委員会）



指標1　分野横断的な協働の仕組み

1-4. 対策委員会の委員リスト

1-5. 対策委員会の開催状況　※詳細は各対策委員会年間活動報告書に記載

1-6. 過去1年間の財政マネジメントにおいて変化があったか

人口減少や少子高齢化に伴い、社会保障関係費やインフラの維持管理のコスト等が増大する中、限られた財源を効率的に活用し、持続可能な行政サービスを提供するための予算管理を行う中で、「安全・安心なまちづくり」のためのセーフコミュニティ事業について必要経費に対する予算計上を行っていることに変更はない。

1-7. 次の1年間の財政計画について

セーフコミュニティ関連予算については、効果的な活動を実施するために必要な予算について、統括事務局である市民部地域環境課（地域振興担当）で計上し、財政部局と協議を行った上で計画している。

1-8. 過去1年間でSC活動全体を担う事務局機能に変更があったか

セーフコミュニティ事業全体の調整を統括事務局である地域環境課（地域振興担当）が担い、各対策委員会は以下のとおり、その分野に関係する担当課がメインの事務局を担う体制で変更はない。　★はメインで事務局を担う担当課

【対策委員会ごとの事務局担当課】

防災・減災対策委員会	…	★総務課（危機管理担当）、建設課、消防課
交通安全対策委員会	…	★地域環境課（地域振興担当）、学校教育課、建設課
防犯対策委員会	…	★地域環境課（地域振興担当）、消防課、産業課、福祉課、都留文科大学　学生支援課
高齢者の安全対策委員会	…	★長寿介護課、生涯学習課
親と子の安全対策委員会	…	★健康子育て課、生涯学習課、学校教育課
心の健康対策委員会	…	★健康子育て課、福祉課、長寿介護課、都留文科大学　経営企画課、産業課

指標2　外傷サーベイランス

2-1. 外傷データの分析を行ったか

例年どおり各委員会のプログラムに関するデータ分析を行った。また、4年に一度実施する市民意識調査の結果を反映し、2018年とのデータを比較し分析を行った。

R8. 1. 29　会議の様子





2-2. 来年に向けて、外傷データの分析における課題や改善点はあるか

・データによる数値は、活動意欲に結びつけたり課題を理解するために使用し、活動の継続性や市民が主体となって活動を行えているかも注視する必要がある。
・扱うデータが膨大であるため、限られた時間の中でより良い意見や助言をいただく工夫を検討する必要がある。
・数値のみで活動の成果をはかるのではなく、アンケート項目のうちの「必要だと思うがしていない」や「現在行っておらず、今後も行う予定はない」などの項目を掘り下げて、どうしたら実際行動に移してもらえるかということを分析する必要がある。

指標2　詳細は2025年度安全診断レポートに記載

指標3　包括性･エビデンスベース

･包括性･持続性

3-1. 過去1年間全ての住民、あらゆる環境や状況をカバーするための取組に変更があったか

事業数　117		取組数	こども（0～14歳）	青年（15～24歳）	成人（25～64歳）	高齢者（65歳～）
不慮の要因	家庭の安全	48	20	17	20	34
	学校の安全	7	5	2	2	2
	職場の安全	5	0	5	5	5
	余暇・スポーツの安全	6	3	3	4	5
	公共の安全	9	9	9	8	8
	交通安全	15	13	15	15	14
	自然災害	14	14	14	14	14
意図的要因	暴力予防（DV、虐待含む）	7	6	6	3	3
	自傷・自死予防	6	4	6	6	5

指標3　包括性･エビデンスベース

･包括性･持続性

3-3. その他、コミュニティの特性を生かした取組の進展

例）モデル地区の取り組みなど

全体	・対策委員会の委員が主体となって、市民視点での取組を展開している。 ・市内に大学があることから、大学生と連携した取組が実施できている。
防災・減災対策委員会	SC防災・減災対策委員会内の女性防災グループを中心として、女性防災士の中核人材を育成するため、各種防災講座を実施。アンケート調査を通して、対策の効果についても検証している。
交通安全対策委員会	人と人との繋がりが強く団結力がある地域性のため、委員会設立当初からメンバーをほとんど変えずに活動を行っている。また、都留文科大学生や警察・交通安全協会など多種多様な属性の委員による多角的な検討を行っている。
防犯対策委員会	・大月警察署や都留文科大学と連携した、地域をまきこんだ活動を展開している。 ・大学生をはじめとする若者から高齢者まで、幅広い年齢層が暮らしているため、年齢層ごとに合った取組を展開している。
高齢者の安全対策委員会	鶴寿大学や「いーばしょ」など高齢者やの通いの場が多いため、通いの場に出向いて対象にあった周知活動を行うことが効果的にできる
心の健康対策委員会	都留市には3つの大学があり、人口の約1割を学生が占めている。そのため、若者から働き世代と幅広い年代層に向けた心の健康づくりへの取り組みを展開している。

指標3　包括性・エビデンスベース

・根拠に基づいた取組

4-1. 対策委員会の取組等根拠に基づいた取組の推進状況について

※各対策委員会年間活動報告書に記載

4-2. 過去1年間で新たに設置した対策委員会や新たに開始した取組があるか

※各対策委員会年間活動報告書に記載

4-3. 過去1年間の取組のなかで最も成功した事例（少なくとも3つ）
※詳細は各対策委員会年間活動報告書に記載

例）その取組によってパートナーシップや他の組織との関係が強化された、財源をより確保できた、得られた成果（アウトカム）など

防災・減災対策委員会	防災イベントで合計約100名の参加者（主に子育て世代・大学生）が来場し、自主防災会の活動や防災啓発活動が実施できた。
交通安全対策委員会	・歩行者事故多発地点において、ドライバーへの街頭啓発を実施できたこと。 ・「わき見運転」の啓発チラシを作成し、商工会を通じて事業所へ配布する段取りができた。
防犯対策委員会	地域と協働し、パトロールを兼ねて「地域清掃活動」を実施した。
高齢者の安全対策委員会	いきいきフェスティバルにおいて「通いの場作品展」を開催し、多くの市民の方に活動を周知できた。
親と子の安全対策委員会	「子どもの権利」及び「子どもの相談窓口」を周知する出前講座について、校長会に了承を得ることができ、実際2校で実施できる運びとなった。
心の健康対策委員会	前年度に引き続き、青木ヶ原健やか樹海ウォークにて、移動時にミニゲートキーパー養成講座を実施した。 今年度は参加者の手元に残るしおりを作成し、ポケットブックとして活用してもらえるようにした。

指標4　ハイリスクの人(集団)・環境・状況に対する取組

4-1. 過去1年間でハイリスクの集団・環境・状況に変更等があったか

以下のとおり、各分野において、当初設定したハイリスク集団に変更はないが、ハイリスク集団への取り組み（プログラム）がより効果的なものとなるよう、推進協議会・サーベイランス委員会等でいただいた助言を基に対策委員会会議で検討を行い、実際の活動に反映させている。

4-2. 過去1年間に展開したハイリスクの対象へ行った取組

※詳細は各対策委員会年間活動報告書に記載

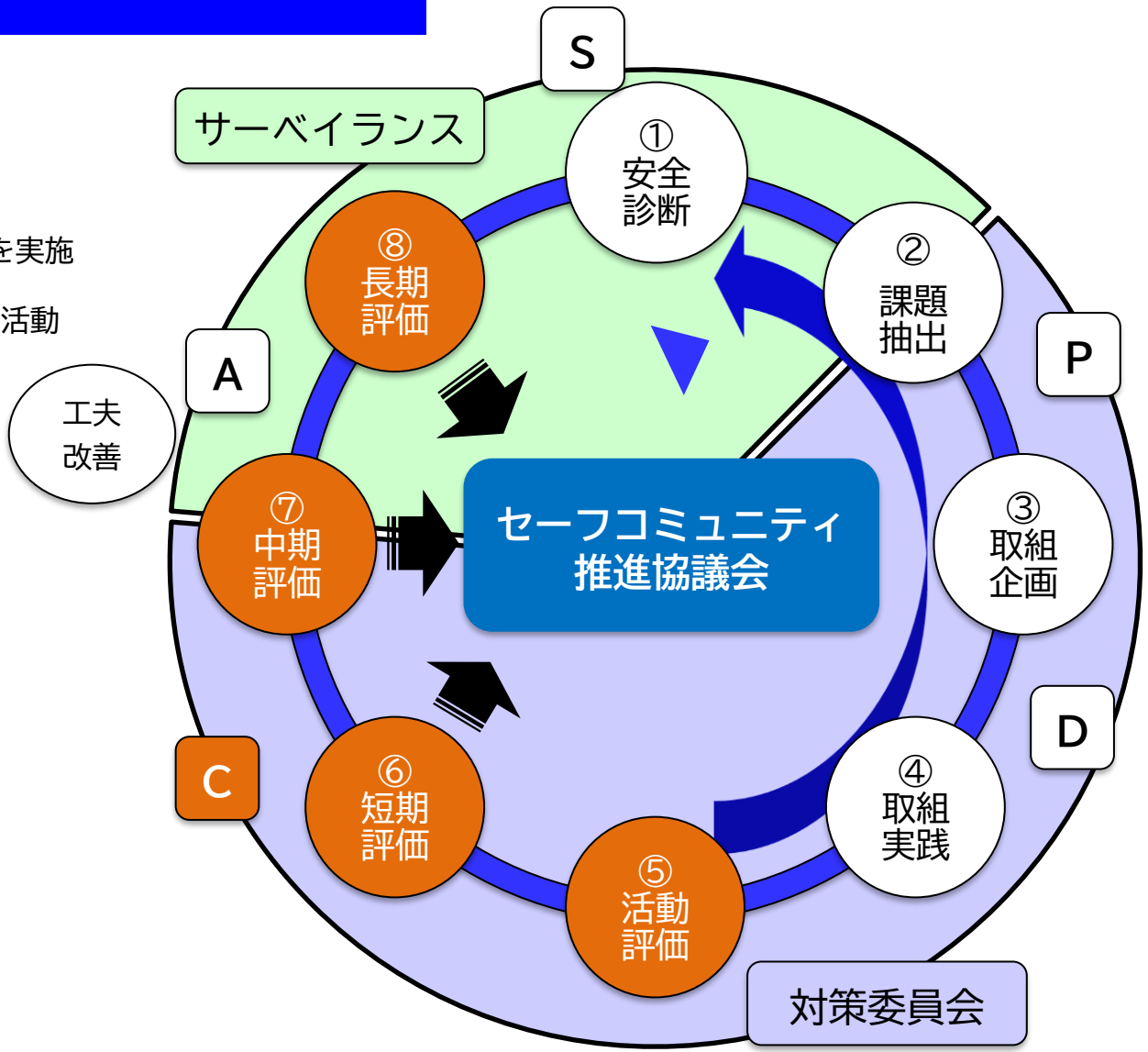
分野（対策委員会）	ハイリスク対象
防災・減災対策委員会	・女性 ・子どもや高齢者
交通安全対策委員会	・若者世代（10、20代） ・高齢者（運転者、歩行者）
防犯対策委員会	・不審者遭遇事案の割合が高い児童、生徒、学生 ・電話詐欺被害に遭う危険性が高い高齢者
高齢者の安全対策委員会	・健康な身体づくりのための活動をしていない高齢者 ・安全な住環境の整備をしていない高齢者とその家族 ・口腔ケアが不足している高齢者 ・通いの場に参加していない高齢者（閉じこもり傾向のある人）
親と子の安全対策委員会	・子育てに不安を抱える保護者 ・虐待の被害者になりうる児童
心の健康対策委員会	・20代の若者世代 ・40～60代の働き世代

指標5　取組の評価(アセスメント)

5-1. 過去1年間に行ったアセスメント

S＋PDCAサイクルに基づいてアセスメントを実施

・推進協議会における年間活動計画、年間活動報告の共有
・外傷サーベイランス委員会による外傷データの評価
・対策委員会による自己評価



5-2. 対策委員会による取組のアセスメント　※詳細は各対策委員会年間活動報告書に記載

※各対策委員会年間活動報告書に記載

指標6　SCネットワークへの参加

6-1. 過去1年間にネットワーク等に参加・貢献したか

a. 国際ネットワーク

・第1回国際安全都市アジア市民大会in京都・亀岡　第11回アジア地域セーフコミュニティ会議（現地）8月1日～8月3日

b. 国内ネットワーク

・さいたま市セーフコミュニティ現地審査(現地)　8月26日～8月27日
・セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会(オンライン)　11月13日
・セーフコミュニティ定例会2025(オンライン）2月5日～2月6日

c. その他のSC普及、展開への貢献

・金沢大学大学院（医薬保健学総合研究科）塚　正彦　教授にダイアローグに参加いただき、専門的な見地からのコメントをいただくことができた。

6-2. 過去1年間、住民に対して行ったフィードバック

広報つるや啓発チラシによる周知、報告

7 その他

7-1. この1年間でもっとも積極的に取り組んだ活動

・事前指導があったため、指標を意識した活動を展開した。成果指標からみえる課題を整理し活動に生かすことができた。

7-2. SC活動及びSCネットワークについて今後の希望や方向性など

・2026年の再認証に向けて、対策委員会は活動と成果の総括を行うこと。統括事務局は活動全体の総括、データ分析から得られた活動の成果や今後の課題を市民、委員へ報告すること。
・引き続き、SCは市民主体の取組であることを認識し、市民、民間、行政が協働して活動を実施すること。また、これまで構築されたつながりを生かした活動を展開していくこと。